

生存が得られた1例

国病九州がんセンター呼吸器部
 饒平名知史, 上原忠司
 兼松貴則, 牛島千衣
 丸山理一郎, 横山秀樹
 麻生博司, 一瀬幸人
 当院では開胸時に発見された癌性胸膜炎を伴う肺癌症例に対して, 原発巣切除と同時にhypotonic cisplatin treatmentを施行しており, 4年生存率は20%である。今回呈示する症例は44歳男性で右上葉肺癌(cT2N2M0)の診断にて開胸した。開胸時約15mlの胸水を認め術中細胞診にてcancer cellを認めたためhypotonic cisplatin treatmentを施行の後, 右sleeve pneumonectomyを施行した。現在, 術後2年経過しているが再発を認めない。

53. Induction Chemoradiotherapy後肺摘除を施行した進行肺癌の1例

国立長崎中央病院外科

辻 博治, 古川正人, 酒井 敦
 宮下光世, 佐々木誠, 徳永祐二

同 内科 木下明敏
 同 病理 藤井秀治

cT4N0M0 III B期の腺癌に対し, 放射線化学療法後に外科治療を施行した。症例は54歳, 男性。画像上左下葉に9×6×4 cm大の腫瘍陰影を認め, 下行大動脈への浸潤が疑われた。CDDP (135mg/day 1), VDS (5mg, day 1, 8) 及び放射線30Gyによるinduction後, 6×3×2 cmへと縮小が見られ肺摘除, 縦隔リンパ節郭清を行い, 低分化腺癌pT3N1M0 III A期であった。

54. CPT-11による下痢に対する臨床的検討

長崎大第2内科 松本 康
 長島聖二, 中野令伊司

塚元和弘, 野口雄二
 岡三喜男, 河野 茂

長崎市立成人病センター

福田 実

当科のCPT-11投与患者全例を対象に検討した。CPT-11単独で4例全例, CDDPと併用で21例中71%, CBDCAと併用で20例中55%に下痢が出現。出現頻度45例中66.7%は全国集計(1014例50.3%)より高かった。Grade 1: 48%, 2: 32%, 3: 19%, 4: 0%。早発性下痢を全98コース中24%に認めた。ほぼ全例が塩酸ロペラミドでコントロールされた。半夏瀉心湯や他の整腸剤の効果は感じなかった。下痢はMSコンチン使用例で軽かった。

55. シスプラチン(CDDP)・イリノテカン(CPT-11)同時分割併用の第I相試験

九州大胸部疾患研究施設

南 貴博, 高野浩一, 井上孝治
 綿屋 洋, 堀口由美子
 尾崎真一, 高山浩一, 川崎雅之
 中西洋一, 原 信之

CDDP分割投与による毒性減少, 相乗効果増強の可能性からCDDP, CPT-11同時分割投与による第I相試験を計画した。CDDPを20mg/m²に固定し, 各用量のCPT-11と同時にday 1, 8, 15に投与した。CPT-11の開始量は40mg/m²とし, 以降10mgずつ増量した。現在までに23例が登録され, 副作用として, grade 4以上の骨髄抑制がレベル2, 4で各1例, grade 3以上の下痢がレベル4, 5で各1例見られた。現在, CPT-11: 90mg/m²にて症例を蓄積中である。

56. イリノテカン(CPT-11)+カルボプラチン(CBDCA)併用化学療法

—Phase I study—

国立長崎中央病院呼吸器科

木下明敏

長崎市立成人病センター内科

福田 実, 坂本 晃

長崎大第2内科 寺師健二

長島聖二, 中野令伊司

塚元和弘, 野口雄二, 高谷 洋
 橋崎史彦, 岡三喜男, 河野 茂

CPT-11+ CBDCA併用化学療法phase I studyを行った。CBDCA(day 1)の投与量(mg)はCBDCA CL(Chatelut)とtarget AUC=5の積に固定し, CPT-11(day 1, 8, 15)は40mg/m²から10mg/m²ずつ増量した。27例が登録され, 年齢69(40~74)歳, 男23/女4, SCLC 14/NSCLC 12/大腸癌1, level 3, level 4でDLT。治療効果はSCLC CR4/PR7/NC2, NSCLC PR4/NC4/PD3, 大腸癌NC1, level 3が最大耐用量, level 2が至適投与量と結論。

57. 肺原発 MALT (mucosa associated lymphoid tissue) リンパ腫の1例

社会保険久留米第一病院外科

村岡達也, 磯邊 真, 田中真紀
 島 一郎, 那須賢司

同 内科 竹田圭介
 久留米大第1病理 神代正道

症例は66歳女性。平成3年より右下葉の肺炎, 無気肺を繰り返している。平成7年気管支鏡検査で右B⁸入口部に粘膜下腫瘍様の隆起性病変を認め, 生検の結果pseudolymphomaが疑われた。更にその後も肺炎を繰り返す為, 平成9年右下葉切除を行い, 術後の病理検索でMALTリンパ腫の診断が得られた。本症は肺悪性腫瘍の中では比較的稀であり術前診断されることは少なく悪性度はlow gradeであり手術加療が有用であったと考える。

58. 肺, 縦隔原発悪性リンパ腫の5症例